



本田 博紀さん
Hironori Honda

町危機管理防災課 相談員

相撲好きが高じて宇土相撲連盟の理事という意外な一面も持つ。読書好きで、特に刑事モノの小説はつつい現場の目線から見えてしまうそう。最近は毎日が慌ただしく、読書の時間が取れないことが残念とのこと。

培ってきた現場経験を生かし 安全・安心なまちへと導く

今年2月に町危機管理防災課の相談員に着任した、本田博紀さん(66)。長年にわたり治安の最前線で培ってきた経験を生かし、町の安全・安心を守る新たな役割を担って

いる。前職は、旧国鉄の鉄道公安官で、駅や客車内の治安を守る仕事に従事。その後、国鉄の民営化を機に警察官へと転身した。当時は同じように警

察官へ転職する人も多く、本田さんも一年間警察学校に通い、試験に合格して新たな道を歩み始めた。

警察官としては、交番勤務や留置場の看守などを経験。さまざまな立場の人と向き合い、対話を重ねる日々を送ったという本田さん。その後、刑事となつてからは盗犯刑事として、尾行や張り込みと

いった捜査手法を身に付け、さらに暴力団や知能犯を対象とした事件も担当するようになった。平成18年から24年にかけては御船警察署に勤務し、その頃から甲佐町とも関わりを持つようになり、このときの縁が今回の着任につながった。

令和2年3月に警察官を退職後は、熊本市上下水道局に勤務。住民対応や時には暴力団とのトラブル対応などにも携わり、現役時代に培った現場での対応力を発揮してきた。その後も、一般企業でのトラブル対応役や保育園での見守り役など、さまざまな場面地域に寄り添う活動を続けている。

現在、町役場には月曜日と水曜日の午後に勤務。取材当日も、午前中は熊本市内の保育園での見守りを終えてからの来庁だった。「忙しい日々の中でも、子どもたちとの触れ合いが大きな励みになっています」と本田さん。最近では、卒園した園児がランドセルを背負って見せに来てくれたことがあり、「とても微笑

ましく、胸が熱くなりました」と優しい笑顔で語る。

町役場での主な役割は、優れた危機管理・リスク対応力を生かし、職員が円滑に業務を進められるよう支えること。トラブルが発生した際には現場へ出向き、状況の把握や対応にあたる。「自分が出動するということは、何かが起きているということ。できるだけ出動しなくて済む日が多いのが一番ですね」と話す本田さんの表情には、長年現場に立ち続けてきたからこそ思いがにじむ。

また、青色防犯パトロール車(青パト)で町内の小・中学校周辺を巡回することも重要な任務の一つ。巡回中、子どもたちが手を振ってくれたり、敬礼をしてくれたりすることもあり、「とても嬉しく、地域の安全を支える任務によりやりがいを感じます」と朗らかな笑みを見せる。

これまでの豊富な経験と人との対話を大切にしてきた姿勢を生かしながら、本田さんは今日も本町の安全・安心を守るために力を尽くす。